

2020 年 5 月 21 日

## 通貨ニュース

# タイ:5 月金融政策委員会～政策金利を過去最低の 0.50%へ引き下げ

タイ中央銀行 (BOT) は 5 月 20 日に金融政策委員会 (MPC) を開催し、政策金利を 25bps 引き下げ、0.50%とすることを決定した (図表 1)。BOT は 3 月にも 25bps 政策金利を引き下げており、政策金利は過去最低水準を更新した。なお、MPC では 7 人の委員のうち 4 人が利下げに賛成し、ブルームバーグの事前予想では 24 人中 21 人が 25bps の利下げを見込んでいた。

声明文では、前回会合時に続き、新型コロナウイルスの感染拡大の影響が深刻化し、予想以上にタイ経済に影響を与えていることを踏まえて利下げを決定したと述べた。BOT は今後についても、輸出や観光、国内需要や設備投資が冷え込む可能性を危惧している。これに対し、既に決定済みの財政・金融政策によって、企業や家計の債務負担を和らげ、資金供給が円滑化されている点に言及し、必要に応じて適切な金融政策を用いることで景気悪化の影響を軽減させていく姿勢を引き続き強調した。

1～3 月期の GDP 成長率は前年比▲1.8%のマイナス成長を記録した。BOT は年間ベースで同▲5.3%ないしそれ以上の景気減速を予測している。また、物価動向についても 4 月の CPI 上昇率は前年比▲3.0%と 3 月の同▲0.5%から 2 か月連続でマイナスに転じており、BOT の目標レンジ (+1.0～+3.0%) からの乖離が大きくなっている (図表 1,2)。こういった状況も今後の BOT による金融緩和を後押しするものと考えられる。

足許の景気が低迷している中で、THB は 5 月に入り上昇する展開となっている (図表 3)。要因としては、世界各国でロックダウンが徐々に解除され、タイ国内でも、商業施設や工場の稼働が再開されており、リスクオフムードが一段落したことなどが考えられる。一方で、輸出依存度の高い産業構造であるタイにとって、THB 高に転じることは痛手となり、BOT も通貨高への懸念に言及している。そのため、THB 高是正も BOT による今後の追加金融緩和の裏の意図として想定されるが、昨年からの政策金利は低下が続き、今回の会合では 0.50%となった。こういった中で BOT も安易に利下げに踏み込めなってきたおり、今後の政策動向には注目が集まる。

THB の動向については、今後上昇は一服していくものと予想する。その要因として景気が想像以上に減速している状況や、新型コロナウイルスの感染拡大の第 2 波が到来する可能性など、リスク要素が依然存在する点が挙げられる。また、BOT が追加の金融緩和を通じて、過剰な THB 高を牽制していくことも想定されよう。その一方、タイは域内最大の経常黒字を有する国であるため、通貨の上昇圧力がかかりやすい。今後の THB 動向を展望する上で、経常黒字の源泉となる貿易黒字を捻出し続けられるかが重要となる。その中で、新型コロナウイルスの感染が終息に向かうフェーズでは、内需のみならず、外需の回復状況にも注意を払っておきたい。

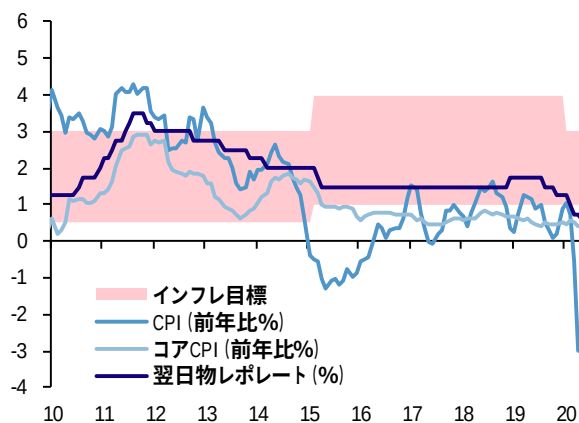
市場営業部

堀 堯大

03-3242-7065

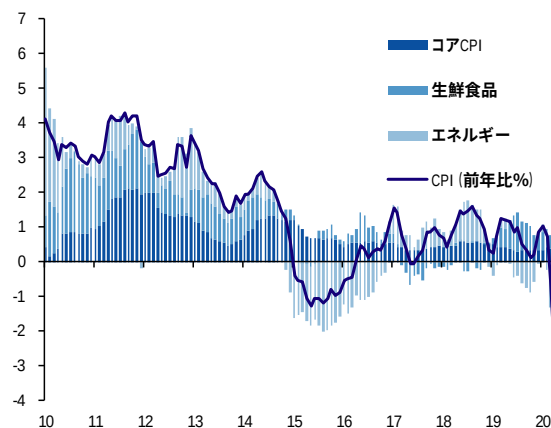
takahiro.hori@mizuho-bk.co.jp

図表 1: タイの政策金利とインフレ率



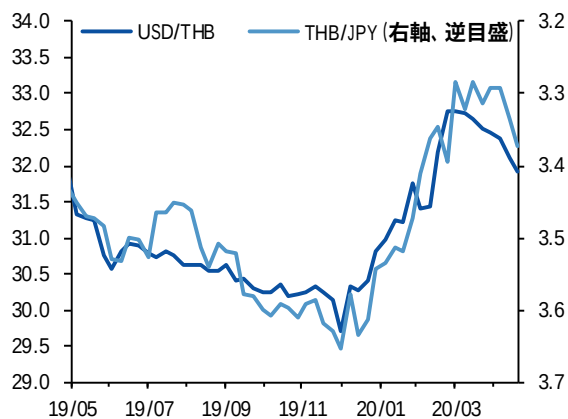
出所: タイ中央銀行、タイ商務省、CEIC、みずほ銀行

図表 2: 消費者物価上昇率の推移



出所: ブルームバーグ、CEIC、みずほ銀行

図表 3: THB の為替動向 (2020 年 5 月 20 日まで)



出所: ブルームバーグ、みずほ銀行

当資料は情報提供のみを目的として作成したものであり、特定の取引の勧誘を目的としたものではありません。当資料は信頼できると判断した情報に基づいて作成されていますが、その正確性、確実性を保証するものではありません。ここに記載された内容は事前連絡なしに変更されることもあります。投資に関する最終決定は、お客様ご自身の判断でなさるようお願い申し上げます。また、当資料の著作権はみずほ銀行に属し、その目的を問わず無断で引用または複製することを禁じます。なお、当行は本情報を無償でのみ提供しております。当行からの無償の情報提供を望まれない場合、配信停止を希望する旨をお申し出ください。